



# 西牧野小だより

2月  
12号

枚方市立西牧野小学校通信  
Tel 050-7102-9116  
Fax 072-851-0035  
令和7年1月31日  
校長 青木 智充

## 今後の教育活動について



まだまだ寒い日が続きますが、暦の上ではまもなく立春を迎え、春の足音が聞こえ始める頃となりました。

さて、今回は学校自己診断結果のご意見をもとに、改めて今後の本校の教育活動について、皆様にお知らせいたします。

文部科学省では、全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、「学習指導要領」という学校教育の基準を定めています。

その学習指導要領は約10年ごとに改訂され、現在は2017年に改訂された学習指導要領の中心となる考え方である「主体的・対話的で深い学び」に則り、本校は学校運営や授業改善を実施しております。

2020年新型コロナウイルスが流行し、そこから約3年3か月コロナ禍で教育活動が停滞しました。2023年度から通常の教育活動ができるようになり、現在に至ります。

まずは本校の取組が国や大阪府、枚方市の教育方針に則り、子どもたちが21世紀を生き抜くために必要な資質・能力を身につけることを目指して教育活動に取り組んでいることをご理解いただければと存じます。

それでは、このような状況を踏まえ、本校では次期学習指導要領(2027年)の改訂に向けて改めて現行の学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」についてと「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、皆様にご理解いただきたく、ご説明させていただきます。

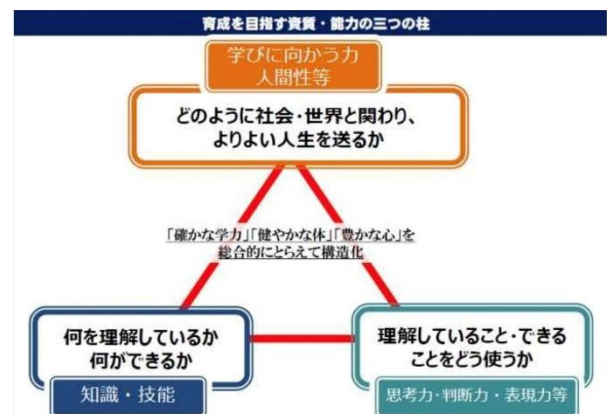
### 1. 「主体的・対話的で深い学び」とは

#### ・主体的な学び：

学ぶことに興味や関心を持ち、自らのキャリア形成と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びです。

#### ・対話的な学び：

児童同士の協働や教職員、地域の人々との対話、先人の考え方を手掛かりに考えることなどを通して、自己の考えを広げ深める学びです。



・深い学び：

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科の特性に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学びです。

## 2. 具体的な学びのイメージ

- ・主体的な学び：自分の学びを自分でコントロールする
- ・対話的な学び：様々な他者と対話する
- ・深い学び：学んだ内容をインプットし、アウトプットする。  
活用・発揮して情報を処理し、長期記憶につなげる

さらに2021年に「主体的・対話的で深い学び」を補完する「令和の日本型学校教育」の姿である「個別最適な学び」と「協働的な学び」を文部科学省が提唱しました。これは現在の新しい教育のあり方であり、2020年代の教育改革の重要な柱となっています。これらの学び方は、子どもたちの多様な個性や学習ニーズに応じ、一人ひとりの能力を最大限に引き出すことを目指しています。

## 3. 個別最適な学び

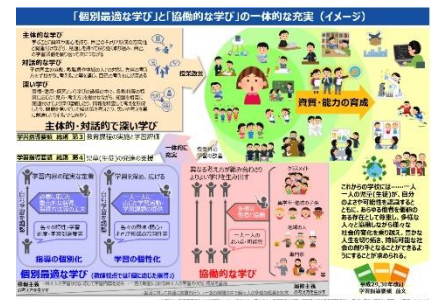
「個別最適な学び」とは、子ども一人ひとりの興味、関心、能力、進捗などに合わせて、最適な学習内容や方法を提供する学び方です。

### ① 特徴

- 個別化された学習計画：子ども一人ひとりの学習状況や目標に合わせて、学習計画を作成します。
- 多様な学習教材：教科書だけでなく、デジタル教材やICTツール、探究学習など、多様な教材を活用します。
- 柔軟な学習時間：子ども自身のペースで学習を進められるよう、時間や場所にとらわれない柔軟な学習環境を提供します。
- 形成的評価：学習の進捗状況をこまめに確認し、つまづきがあれば個別指導を行うなど、きめ細やかなサポートを行います。

### ② 目的

- 学習意欲の向上：自分の興味や関心に合った学習ができるため、学習意欲を高めます。
  - 学力の向上：一人ひとりの理解度に合わせて学習を進めるため、確実な学力向上につながります。
  - 自己肯定感の向上：自分のペースで学習できるため、達成感を味わいやすく、自己肯定感を高めま
- す。



#### 4. 協働的な学び

「協働的な学び」とは、子どもたちが互いに協力し、学びを深める学び方です。

##### ① 特徴

グループワーク：子どもたちがチームを組み、課題解決やプロジェクト学習に取り組みます。

対話：互いの意見交換や議論を通して、考えを深めます。

教え合い：得意なことを教え合い、苦手なことを助け合うことで、学びを促進します。

多様な視点：様々な意見に触れることで、視野を広げ、多様な考え方を身につけます。

##### ② 目的

コミュニケーション能力の向上：互いに協力し、意見交換をする中で、コミュニケーション能力を高めます。

問題解決能力の向上：チームで課題解決に取り組むことで、問題解決能力を高めます。

社会性の向上：多様な人と協力し、共生していく力を養います。

#### 5. 学習活動の進め方や工夫

- ・自立学習・自己調整学習（自由進度学習）：子どもたちが、自分の学びを自分でコントロールできるようになり、主体的に学習に取り組むことができます。
- ・課題解決型学習（PBL）：実社会で役立つ知識やスキルを身に付けることができます。
- ・家庭学習の個別最適化：家庭学習を効果的に行うことができます。

#### 6. 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実・往還

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、子どもたちの資質・能力を育成することを目指しています。また、個別最適な学びと協働的な学びを交互に行うことが重要です。

「個別最適な学び」で、一人ひとりの学習ニーズに応じたきめ細やかな指導を行い、「協働的な学び」で、多様な人々と協力し、学びを深める力を養います。この二つの学びを組み合わせることで、子どもたちは主体的に学び、対話を通して学び、深く考える力を身につけることができます。

本校は、この「個別最適な学び」と「協働的な学び」という子どもたちの多様な個性を尊重し、一人ひとりの能力を最大限に引き出すための新しい教育を取り入れ、「以前の授業のやり方が良い・悪い」「自由進度学習に取り組む・取り組まない」などの2項対立的な考えではなく、児童の実態に合った学習方法に取り組んでいく所存です。また、これらの学びを通して、子どもたちが21世紀を生き抜くために必要な資質・能力を身につけることを目指して教育活動を推進してまいります。

今後とも本校の教育活動にご理解ご協力よろしくお願いいたします。

